0歳児 保

8月の指導計画 山梨・甲府市 菜の花こども園

クラス編成
0歳児……7名
保育者……3名

前月末の子どもの姿
●「おしっこ出たね」と言うと、自らトイレに行き、おむつを交換してもらう子もいる。
●友達の「貸して」などの言葉やしぐさに「んっ（どうぞ）」と渡したり、もらうと頭を下げたりするなどのやりとりをしている。
●ハイハイやつかまり立ち、ひとり歩きなどで自分の興味があるものの場所に行き、活発に遊んでいる。
●新入園児にやきもちを焼き、保育者に甘える子どももいる。
●わらべうたを好み、保育者をまねて歌に合わせて手を動かし、楽しそうにしている。

今月のねらい（◎養護　○教育）
◎個々の生活リズムを大切にしながら、体調に気を配り、暑い夏を快適に過ごせるようにする。
○保育者に見守られながら、水遊びをしたり、好きな玩具で存分に遊んだりする。

子育て支援
●あせもやおむつかぶれなど、夏に多い皮膚のトラブルの情報や、清潔にすることなどを便りで周知する。
●暑さで食欲が落ちたり、睡眠が十分にとれなかったりするため、連絡帳から家庭での生活リズムを把握し、園の生活を調整する。また、夏におすすめの離乳食レシピなどを便りで知らせていく。

環境構成
●外で水遊びなどをする際は、タープを張るなどして、紫外線を防ぐ。
●水遊びや沐浴などの準備をあらかじめしておき、保育者同士が連携して着替えなどをスムーズに行えるようにする。
●ペットボトルや牛乳パックなどで、シャワーや船など、水の中で遊べる玩具を用意する。

保健衛生
●あせもやおむつかぶれなどの症状が見られた場合は、シャワーなどでこまめに流し、清潔を保つようにする。
●こまめに水分補給をしたり、休息をとったりして、熱中症を防ぐ。

	内容	環境構成（○）と援助・配慮（◎）
養護と三つの視点 身近なものと関わり感性が育つ	●さまざまな食材に慣れ、意欲的に食べる。	◎手づかみ食べや食具を使って食べるなど、自分で食べたい欲求を大切にかかわり、「おいしいね」「自分で食べられたね」など満足感が味わえるような声かけをする。 ○汁物のカップは子どもが手を添えて飲みやすいように、小さめのものにする。
身近な人と気持ちが通じ合う	●両手でカップを持ち、汁物を飲む。 ●おむつがぬれていないときは、便座にすわってみる。 ●沐浴や水遊びをして心地よく過ごす。	◎一人ひとりの排泄のタイミングを把握し、声をかけておむつを交換したり、ぬれていないときは便座にすわるよう誘ったりする。 ◎沐浴や水遊びの際は「気持ちいいね」など、言葉にして伝える。また、タオルや着替えは前もって準備し、保育者同士で連携してスムーズに沐浴（水遊び）や着替えができるようにする。また、プールや浴槽は毎日消毒して清潔を保つ。
健やかに伸び伸びと育つ	●這う、つかまり立ち、伝い歩き、歩く、登る、降りるなど、活発に体を動かす。 ●さわる、つまむ、握る、丸める、破くなど、手や指先を使った遊びを楽しむ。 ●フィンガーペインティングをして、その感触を味わう。 ●手あそびやわらべうたを保育者に歌ってもらいながら、一緒に体を動かす（「おふねがぎっちらこ」「いっぽんばしこちょこちょ」など）。	◎子どもたちが全身を使ってのびのびと動くことができるよう、マットの山やトンネル、階段などを置いて環境を整え、安全面に配慮しながら見守る。 ○手や指先を使う道具をビジーボードや棚などに用意し、子どもたちが自ら手を伸ばしてやりたくなるような環境作りをする。また、子どもの前で保育者がゆっくりとやって見せ、その使い方を知らせていく。 ◎保育者も一緒にペイントに触れ、「ヌルヌルするね〜」「つるつるだね」など言葉を添えながら感触を楽しむ。また、嫌がる子は見るだけにするなど、その子に合わせて対応する。 ◎わらべうたを通してふれあいを十分に行い、その心地よさを知らせていく。

	このはちゃん（1歳3か月）	ゆうた君（1歳0か月）
子どもの姿	●離乳食が完了期に移行する。手づかみで、よくそしゃくして食べることができている。 ●名前を呼ばれると「はーい」と手を挙げて返事ができる。 ●わらべうたを覚え、動作も交えて「どっこいしょ」などとまねをしては笑う。 ●水遊びは慎重で、保育者と一緒なら入るが、ひとりでは嫌がる。	●離乳食は、後期食にも慣れ、おにぎりをつまんで食べるなど意欲的だが、ブロッコリーなどの野菜は手で口から出してしまう。 ●ひとりで立ち、10歩ほど歩くこともできるが、転倒も多い。 ●喃語（なんご）、指さしが増えている。 ●水遊びが好きで、プールバッグを持ち歩き、保育者に「んっんっ」と渡す。水も怖がらず、積極的に入って楽しんでいる。
ねらい	●手づかみや食具を使って意欲的に食事をする。 ●保育者に見守られて、安心してひとりで遊ぶ。 ●「どうぞ」「どうも」など、簡単な言葉のやりとりを楽しむ。 ●夏の遊びを楽しむ。	●いろいろな味や食材に慣れ、自分で食べようとする。 ●保育者が見守る中、ハイハイや歩行など、全身を使って動く。 ●喃語や指さしで思いを伝える。 ●水遊びを楽しむ。
保育者のかかわりと配慮	●食べようとする意欲を大切にしながら、手づかみで食べやすいような形状の食材を準備してもらうようにする。また「モグモグゴックンね」など、口元を見せ、よくかんで食べるよう促す。 ●ぽっとん落としやままごと、ブロック、シール貼りなど、本児の興味のある玩具を用意し、自分で遊べるようにする。 ●喃語や言葉に応答的にかかわり、言葉の獲得につなげていく。 ●安心して水で遊べるように、注意しながら近くで見守る。	●自分で食べようとする気持ちを大切にしながらかかわり、「おいしいね」「柔らかいね」などの言葉をかけていく。 ●体を動かして遊ぶときには、安全で広い場所を用意する。 ●要求や指さし、しぐさに込められた思いを受けとめ、伝わる喜びを一緒に感じられるようにする。 ●水の中で遊べる玩具を用意し、安全面に留意しながら存分に遊べるよう、手の届く位置で見守る。

新幼児と保育 2023年｜夏号 別冊ふろくより掲載
▶公式サイト「みんなの幼児と保育」

展開資料

いたずらの意味

～暑い夏がやってきました～

子どもは汗をかきやすいので、清潔を保つために沐浴やシャワーを利用したり、クーラーを利用したりして、日々快適に過ごせるようにしています。水遊びもタライや家庭用のプールを用意して、危険のないよう一緒に入り、見守りながら行っています。

～いたずら好きのけんた君～

けんた君（1歳4か月）は、先月から水道に興味を示し、レバーをひねっては水に手をかざして不思議そうに見ていたり、シンクに溜まった水を手でピチャピチャと叩いて顔にはねたりするのを楽しんでいます。保育者が「お水気持ちいいね」と言ったあとに「一度止めるね」と言って止めると、けんた君はぬれた手を床に押し当てます。「床がぬれるとみんなが転んでケガをして危ないから拭くね」と言って保育者が拭くと、また水道をジャーッと出してはピチャピチャと叩き始めるのです。水が好きなので、プール遊びの時間を長めにとってみましたが、単に水が好きというよりは、自分でレバーをひねれば水が出るという仕組みを見つけたことがうれしいようで、「僕は今これに興味があるんだ」と言わんばかりに、水を出しては手をかざし、シンクの中で水しぶきをあげては目をキラキラとさせて、夢中でくり返しています。保育者が「そろそろ終わろうか?」と止めると、ひっくり返って泣くこともあります。好奇心旺盛なのはいいけれど、水浸しになって一日に何度も着替えることがあるので、保育者同士でこの先どうしようか?　と話していました。

～使い方を理解して～

それから約10日後、新入園児のえなちゃん（1歳0か月）が食事前に手を洗うときのことです。保育者が水を出そうとすると、けんた君が来て水道の水を出してくれ、保育者がえなちゃんの手を洗い終えると、水道を止めてくれました。保育者は「ありがとうね。助かったよ」と伝え、「次は少しだけ出してほしいな」とお願いしてみると、レバーをコントロールして少量の水を出してくれ、私たちは驚いてしまいました。あのいたずらとも取れる行為は、水を出したり止めたりする仕組みを理解し、操作することにつながっていたのだと思いました。

けんた君はほかにも、部屋にあるティッシュを全部出したり、ゴミ箱の中身を出したりと、何事にも興味津々なのですが、鼻水が出ているとティッシュを持ってきてくれたり、ゴミはゴミ箱に捨てるようになっています。そんなふうに一つひとつのものを適切に使えるようになっていくと、むやみに出したり、水をピチャピチャと叩いたりする行為が減ってきました。

今は外に出て、水溜まりを見つけては足でパシャパシャと泥水をはじいたり、手で混ぜて泥んこになったりすることがおもしろいようです。汚れものも多いのですが、保護者とも話し、やりたいことを存分にやってもらうようにしています。保育者同士でも連携をとり、納得して終わるまで付き合うようにしています。そのようにかかわることで、興味を持ったことをいつまでも続けるのではなく、自分でその性質や使い方が理解できると、また別のものに興味が移っていくことが感じられます。子どもはそのくり返しで、ひとつずつものごとを理解し、成長していくのだと思います。この先のけんた君の成長が楽しみです。

評価
大人からすると一見「いたずら」とも取れる行為は、子どもにとっては探索活動のひとつで、好奇心や探求心を育てるものといわれます。しかし、いつも一緒にいる保育者は、これはいつ終わるのか?　このままでいいのか？と思うこともあり、過度な場合は止めることもあります。でも、子どもの姿をよく観ると、不思議だと思うから試し、知りたいという気持ちからくり返し行っており、自分なりに納得すると、その行為が減っていくことがわかります。子どもが今、なぜこれをしているのか、よく観ると見えてくることはたくさんあるので、子どもの成長を信じてかかわっていくことが必要だと思います。